

令和6年度 後期 学校評価

鬼北町立日吉小学校

【評価基準】 A:80%以上達成 B:70%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満

重点目標	評価指標				評価	評価	○考察 及び ●改善方法
確かな学力	1	①しっかり考え、伝え合う授業を実践している。	教師	しっかり考え、伝え合う授業を実践している。	B	A	○自分の考えを発表する機会は多く設けるようにしているが、互いに考えを深めるような話合いにまでは至っていない。 ○馴れ合いになっていると感じることがあるので、きちんと自分の言葉で伝える習慣を身に付けさせていくことが必要である。 ○できる限り話合いの時間を作り、意見交換できるようにしたい。 ●各教科において言語活動を適切に設定し、自分の考えや思いを伝えられる力を付ける。 ●学級の仲間だけでなく、他校との交流学習を積極的に行い、多様な意見を引き出せるような取組を実施する。教師が、ファシリテーター役となり思考が深まる意見交換を行う。
			保護者	子供の学級では、しっかり考え、伝え合う授業を行っている。	A		
			児童	学校で、しっかり考え、話合い活動に進んで参加している。	A		
	2	②基礎・基本が確実に定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	教師	基礎・基本が確実に定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	B	B	○基礎的・基本的な学力、家庭学習（特に自主学習）については、個人差がある。 ○EILSの活用によって、特に計算力が付いた。 ●家庭との連携を図りながら、家庭学習の定着に向けたルールづくりをなどの工夫を行う。 ●基礎・基本の定着に向け、ナビマやEILSなどの学習支援ソフトを活用し、個人差に応じて学習に取り組めるようにするとともに、見取りや励ましを行う。
			保護者	子供は、基礎・基本が定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	B		
			児童	家庭学習がきちんとできている。	A		
	3	③読書に親しんでいる。	教師	読書に親しんでいる。	A	A	○本をよく読む児童とそうでない児童との差が大きいが、読書の記録をすることが習慣になってきている。 ●みきゃん通帳の読書記録やファミリー読書のコメントを紹介するなどして、継続的に働き掛けをすることで、記帳の習慣化と読書意欲の向上へとつなげる。
			保護者	子供は、ファミリー読書や学校での読み聞かせなどで、読書に親しんでいる。	B		
			児童	読書に親しんでいる。	A		
評価 学校関係者 委員意見	○少人数の良さを有効に活用し、きめの細やかな指導ができている。デメリットの「馴れ合い」を打破するためにも、自分の思いや考えが発言しやすい雰囲気づくりに努めてほしい。 ○家庭におけるタブレット（PC）の適正な使用について検討してほしい。 ○本屋へ行こうプロジェクトは、読書が苦手な児童にも、興味や関心を持たせるために有効である。今後も継続してほしい。 ○読書は親の影響も大きい。読書は全ての学力に繋がっている。語彙力や知識を増やすためにも進んで読書に向ける児童を育ててほしい。				学校の対応	○自分の考えを進んで発表する場、友達の意見を認め合える場を、授業や様々な活動の中に取り入れていく。 ○タブレットの使用については、ルールを守って使わせるだけでなく、過度な使用にならないよう家庭と連携した指導を継続していく。 ○読書の大切さを児童に呼び掛け、様々な取組を有効活用しながら読書意欲を向上させる。	

重点目標	評価指標			評価	評価	○考察 及び ●改善方法	
豊かな心	4	④地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた学習を実践している。	教師	地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた学習を実践している。	A	A	○地域の方々に協力していただきながら、郷土学を進めることができた。 ●様々な体験活動を生かし、探究的で深い学びにつなげられるよう指導計画の見直しや工夫が必要である。
			保護者	学校は、地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた教育活動を実践している。	A		
			児童	日吉の人たちといっしょに勉強したり、日吉について調べたりした。	A		
	5	⑤進んで挨拶や返事ができる。	教師	進んで挨拶や返事ができている。	B	A	○少しずつ良くなっていると感じるが、特定の場面ではできない児童もいる。また、相手の顔を見ながら挨拶をするということについても課題を感じる。 ●「いつでも、どこでも、誰にでも」を合言葉に、挨拶運動に引き続き力を入れていくことが重要である。 ●道徳科の授業を核に気持ちの良い挨拶をしようとする心情を高めるとともに、校外学習などで実践できるように、まず、教師が率先して挨拶し模範となる。
			保護者	子供は、進んで明るい挨拶や返事ができている。	A		
			児童	進んで明るい挨拶や返事ができている。	A		
	6	⑥きずな班活動を通して、仲間づくりに努めている。	教師	きずな班活動を通して、仲間づくりに努めている。	A	A	○きずな班での活動だけでなく、給食の場面等でも温かい仲間づくりができていると感じる。全校児童が互いのことを思いやり、助け合える場面も多く見られた。 ●高学年がリーダーシップを発揮しながら活動できる場面を多く設定し、仲間を思いやる気持ちや協力的な態度を育てていく。
			保護者	子供は、学級やきずな班の活動を通して、仲良く活動している。	A		
			児童	友達の気持ちを考え、認め合い、協力し合って、楽しい学校生活が送れている。	A		
評価委員会 学校関係者意見	○郷土学の発表会では、1年生からしっかりとした発表ができており感心した。 ○「挨拶すること」は、子供たちは自覚できていると感じる。できていない時は、大人から声を掛けてやり、元気な挨拶が交わせたら良いと思う。日々のやりとりの中で習慣化させてほしい。返事についても、家庭からしっかりできるようにさせたい。 ○かつての教育活動が戻ってきていることに安心している。今後も良好な仲間づくりができるようにしてほしい。				学校の対応	○地域の方々の協力を得ながら、多くの体験活動や郷土学の学習を進めることができた。児童には感謝の気持ちを持たせながら、学習を深められるよう、指導計画の見直しを行う。 ○挨拶・返事については、家庭の様子を把握しながら、連携して指導していく。また、挨拶運動を地域にも呼び掛けていく。 ○児童の仲間づくりのために、これまで続けてきた活動を見直し継続していく。その中で、互いに認め合える場を多く持てるようにする。	

重点目標	評価指標				評価	評価	○考察 及び ●改善方法
健やかな体	7	⑦「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化が図られている。	教師	「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化が図られている。	B	A	○ゲームやYouTubeなどのデジタル機器に触れる時間が多く、生活を見直させる必要がある。 ○朝ごはんについては、家庭の協力も得られ、改善されている。 ●様々な機会を利用し、現在の生活の見直しをさせ、ネット等による依存の脅威も含め継続指導していく。 ●元気アップ週間の結果について、学級担任と養護教諭が連携しながら、個別指導をするとともに、「元気アップだより」での啓発、必要に応じて個別懇談会等を利用した家庭との連携を図る。
			保護者	子供は、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いている。	A		
			保護者	家庭で、子供が「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付くように取り組んだ。	A		
			児童	「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いている。	A		
	8	⑧楽しく運動を続けている。	教師	楽しく運動を続けている。	A	A	○児童の体力向上に向けて、ITスタジアムやモーニングタイム（体力づくり）等を活用することができている。また、毎週水曜日の昼休みを「全校遊び」とし、児童会が中心となった活動も行うことができた。 ●全校児童が楽しみながら運動に親しむ取組を今後も定期的に継続して行っていく。 ●家庭でも行える体力づくり・体づくりについて、啓発を行う。
			保護者	子供は、楽しく運動を続けている。	A		
			児童	楽しく運動を続けている。	A		
	9	⑨元気で学校に通学し、明るく学校生活を送っている。	教師	元気で学校に通学し、明るく学校生活送っている。	B	A	○風邪などの流行もあり、欠席0の日が伸びなかった。 ●基本的な感染対策を講じながら、全員が元気に登校できるように環境を整える。また、家庭と連携しながら、身体面だけでなく、心の面でも支援していく。 ●授業を中心に、一人一人と目を合わせて声を掛け、できるようになったことや成長できたことを、学級・学校全体で認め合える集団作りをする。
			保護者	子供は元気に学校に登校し、明るく学校生活を送っている。	A		
			児童	元気で学校に登校し、明るく生活している。	A		
評価 学校関係者 委員意見	○「早寝・早起き・朝ごはん」については、教師と児童・保護者に評価の違いがある。家庭の意識を変えていく必要がある。 ○家庭によっては、朝食抜きになっていることが多くなっているのではないかと。 ○朝は身体や気持ちがいそいそ児童も多いと思うので、途中からでも学校に行きたくなくなるような声掛けをお願いしたい。 ○ITスタジアムを活用し、楽しく運動ができていることが良い。 ○「元気で」を今一度見つめ直し、「たくましさ」を育ててほしい。				学校の対応	○子供たちの生活習慣や食習慣については、家庭の役割の大きさを啓発しながら、協力が得られるよう保護者に呼び掛けていく。 ○身体を動かす喜びを味わわせながら、元気に過ごせる児童を育てる。 ○「元気」「根気」「やる気」の校訓を児童に意識させ、あきらめず頑張り抜くことができる児童の育成を目指す。	

重点目標	評価指標				評価	評価	○考察　及び　●改善方法
学校・家庭・地域の連携	10	⑩ ホームページ、学級通信・学校だより等で学級の取組を発信している。	教師	ホームページ、学級通信・学校だより等で、学校の取組を発信している。	A	A	○ホームページや学校だより、ボランティア通信などで、児童の様子を発信することで、開かれた学校づくりの一助となっている。 ●引き続き「給食だより」を通して、食育に関する情報や給食の取組などの発信を続けていく。
			保護者	学校は、ホームページや学級通信・学校だより等で、子供の様子や学校の取組を発信している。	A		
	11	⑪ 人・こと・もののかかわりを通して、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	教師	人・こと・もののかかわりを通して、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A	A	○多くの人と関わりながら学校経営ができています。 ●地域の人やものとの関わりを大切にした学校経営を継続する。 ●地域との連携においては、Win-Winの関係となるよう、学校（児童生徒）が地域に貢献する取組を検討していく。
			保護者	学校は、学校行事やPTA活動を適切に設定し、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A		
	12	⑫ 保護者・地域住民・教職員と連携して教育活動を行っている。	教師	保護者や地域住民と連携して教育環境の整備・充実を図っている。	A	A	●協力的な保護者が多いことに感謝している。学校での学びにつながるよう、更なる連携を図りたい。 ●保護者への連絡を密にし、小さなことでも相談しながら問題解決に向けて連携を図っていく。 ●教育活動に合わせて、子供が、地域の一員として地域イベントに協力することで、郷土を愛する児童の育成を行っていきたい。
			保護者	学校は、保護者・地域住民・中学校と連携して教育活動を行っている。	A		
評価委員会 学校関係者意見	○デジタルとペーパーの併用で情報発信を行い、多くの人に関心を持ってもらっているのではないかと。今後もお願いしたい。 ○郷土学発表会で、改めて学校と地域との繋がりの強さ、太さを感じた。地域の宝である子供たちを、三者で協力・連携して育てていかなければならない。 ○いろいろな面で、地域の方が子供たちを気に掛けてくださっていることがありがたい。また、その様子を情報発信してもらっていることで、さらに繋がりが深くなっていると思う。 ○少ない子供たちに対して、地域の一員として大切に見守っていききたい。				学校の対応	○学校での様子を積極的に発信する取組が、保護者や地域の方々とのきずなを深めていると感じる。今後も、様々な情報提供を積極的に行い、地域と共にある学校づくりに努めたい。 ○地域に守り育てられている子供たちが、地域に貢献していこうとする取組について検討し、実践に移していく。	